

令和4年度・5年度

学力向上研究校指定事業

進んで考え学び合う児童の育成

～一人一人のよさを生かす授業づくり・学級づくりを通して～



東松山市立新宿小学校



学校教育目標
思いやりのある子
進んで考え 学び合う子
健康でたくましい子



昭和58年開校(41年目)

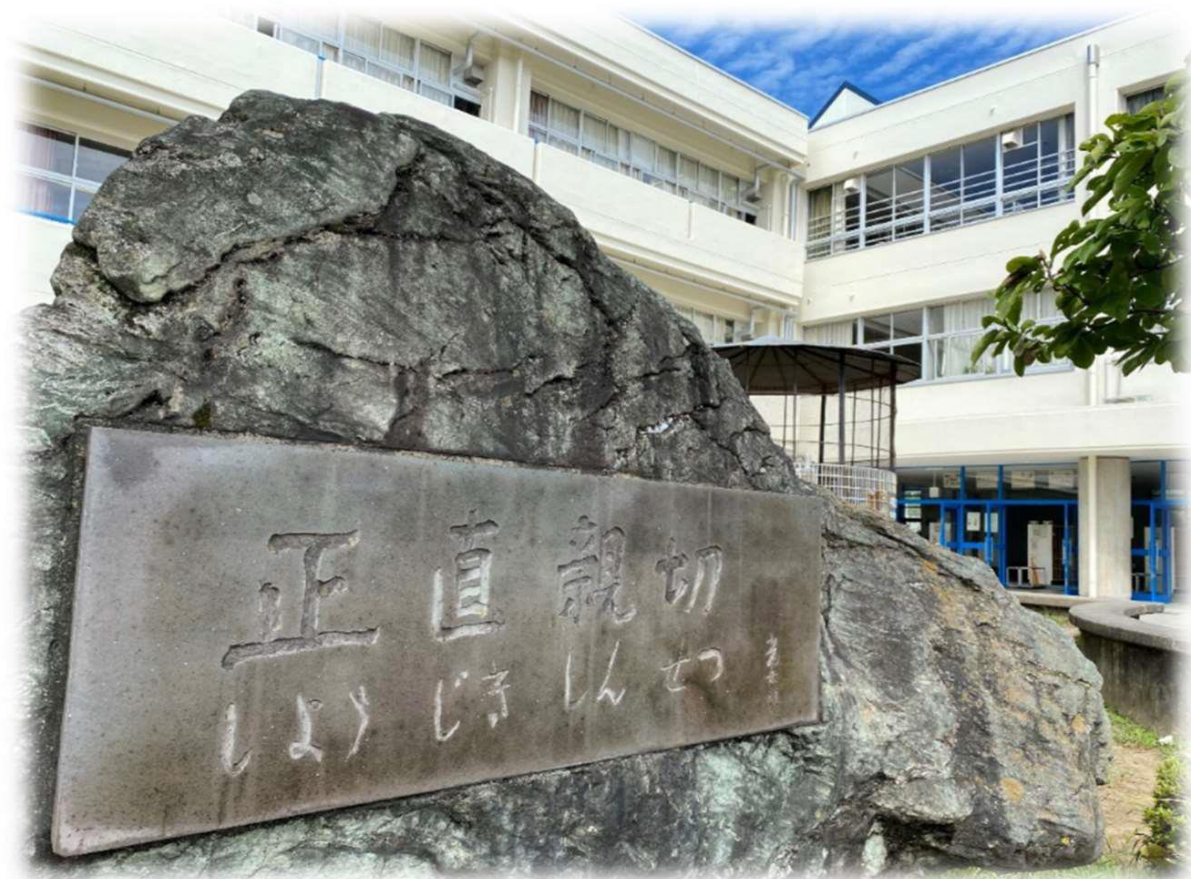
児童数 388名

学級数 18学級(通常13 特別支援5)

※発達障害、情緒障害通級指導教室2

県費教職員数 31名

校訓
正直・親切



本校の現状

- ・豊かな自然に囲まれ、**明るくたくましい子**が育っている。
- ・**日本語指導教室**や**通級指導教室**が設置されている。児童同士もお互いに受け入れる**温かい雰囲気**がある。
- ・外国籍児童や経済的に厳しい家庭も多く、**生活習慣が整っていない家庭**もある。
- ・国語や算数の学力も**県平均（正答率）**から比べると**3～10ポイント低い**。

（R4 埼玉県学力学習状況調査より）

研究主題設定の理由

- ・一人一人に応じた**学力向上の取組が必要な状況**にある。
- ・**一人一人のよさを見つけ、それらを生かす教育活動**を充実させ、学びに向かう力の育成を図る。
- ・**「生徒指導の王道は、学力向上にあり」** 学力向上の取組を通して、自己効力感や自己有用感の向上を図る。

進んで考え学び合う児童の育成

～一人一人のよさを生かす **授業づくり・学級づくり**を通して～

授業づくり

一人一人のよさを生かし、児童が主体的に考える授業ができれば、学ぶ楽しさを実感し、学力が伸びるであろう。

学級づくり

一人一人のよさを生かし、互いに認め合える学級づくりを行えば、よりよく学び合うことができ、学力が伸びるであろう。

家庭との連携を深めれば、児童への理解や支援が増し、学力が伸びるであろう。

研究組織と活動内容

学校課題研究全体会

学校課題研究推進委員会

- ・ 児童の意識調査
- ・ 成果検証

ブロック研究部

○低学年○中学年○高学年○特別支援

活動・研究授業・研究協議

- ・ 各専門部の研究の具現化
- ・ 環境整備（教室・学年掲示）

専門部

○授業づくりチーム
（活動）

- ・ 授業形態
- ・ 学習方略分析
- ・ 児童分析

○学級づくりチーム

- （活動）
- ・ 非認知能力向上
- ・ 家庭連携

ユニバーサルデザインの視点

1年目の取り組み

授業づくり

「授業力向上」

- ・ 教師の意識改革
- ・ 指導技術の伝承

学級づくり

「行動目標の共有」

- ・ 学習ルールの明確化
- ・ 自己効力感
- ・ 家庭との連携

1年目の研究を活かすのは、新年度の4月

**授業づくり・学級づくり
ハンドブック作成**

授業づくりチーム

6月13日 ブロック研修まとめ

ブロック	新宿小の子供たち		新宿小の先生方		めざす授業
	強み	弱み	強み	弱み	
低学年	・出来ないことを出来ないと言える。 ・誰かと一緒に頑張れる。 ・読み聞かせが好き。	・文章を読むのが苦手。 ・問題が長いとあきらめてしまう。 ・やり方が分からないから出来ない。	・熱心、真面目。 ・チームワークが良い。	・時間の使い方に課題。 ・教材等の引継ぎができていない。	・全員が考え、参加する授業
中学年	・元気、素直、明るい ・反応がいい。臆せず言える。 ・学年を超えて、国を超えて交流している。 ・人懐っこい	・幼い ・基礎学力が低い ・積み上がっていない ・家庭の教育力(低) ・学習規律 ・学習用具がそろわない	・子供第一でよく頑張っている。 ・職員室で普通に話している内容が、生徒指導。情報を共有できている。	・働き過ぎ ・生徒指導をしてから教材研究になっている。 ・教材研究の優先順位が最後。	・むずかしいことを優しく、優しい(簡単なこと)を深く。そして、おもしろく。 ・子供の問題(課題)意識を高めて授業へ ・子供のつぶやきをひろいながら、子供と一緒に創る授業
高学年	・素直 ・教え合える ・関わり合える	・語彙力が低い ・自己肯定感 ・粘り強さ ・宿題 ・粘り強さ	・協力ができている。(授業準備・教材作り) ・少人数指導ができる。(異質グループから同質グループにしていくとい)	・個別に見る時間がない。(上の子も下の子も) ・下に合わせてしまう。	・少人数(グループ)での指導による一人よぎを引き出す授業
なかよし・さくら	・人懐っこい ・どんなことでもできる。 ・たくましく ・生活面 ・自己解決 ・素直 ・らしい)				効果のある授業に応じた課題。

「なんで? どうして?」
のつぶやきを大切に、
45分間考え続ける全員
参加の授業を目指します

新宿小の子供たち

- 【強み】
- ・できないことを素直に言える。
 - ・友達同士で関わり合える。
- 【弱み】
- ・基礎学力の定着に課題がみられる。
 - ・学習に対して、粘り強さが無い。

新宿小の先生たち

- 【強み】
- ・チームワークがよく、学習面や生徒指導面で協力ができる。
 - ・ベテラン、中堅、若手のバランスがいい。
- 【弱み】
- ・下位層に合わせる事が多くなる。
 - ・生徒指導をしてからの、教材研究。

授業づくりチーム

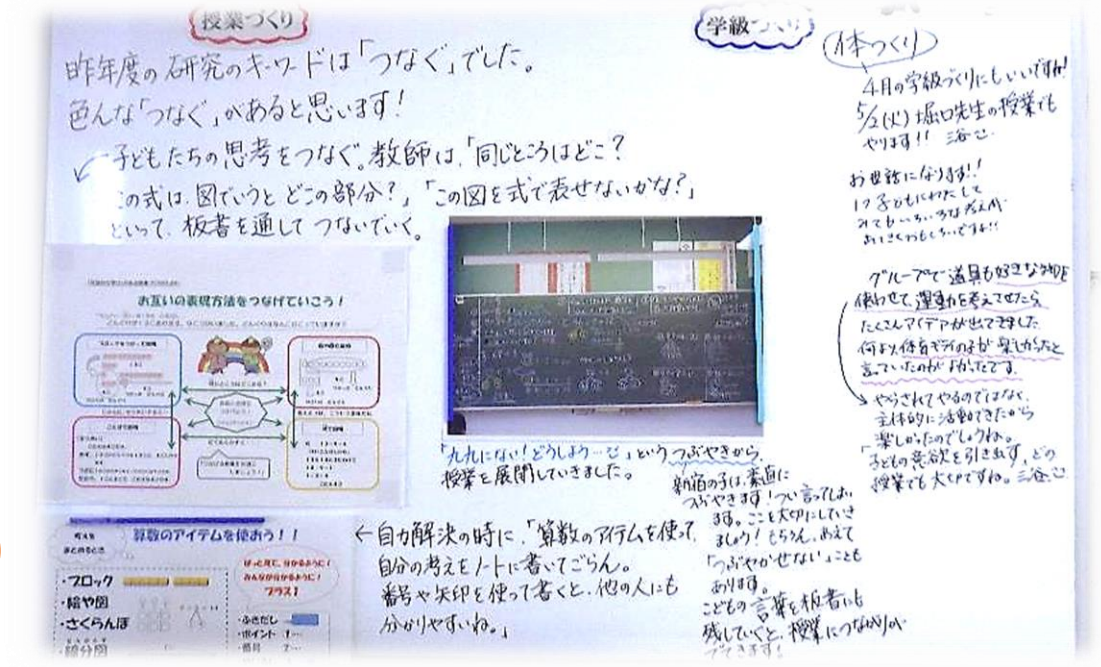
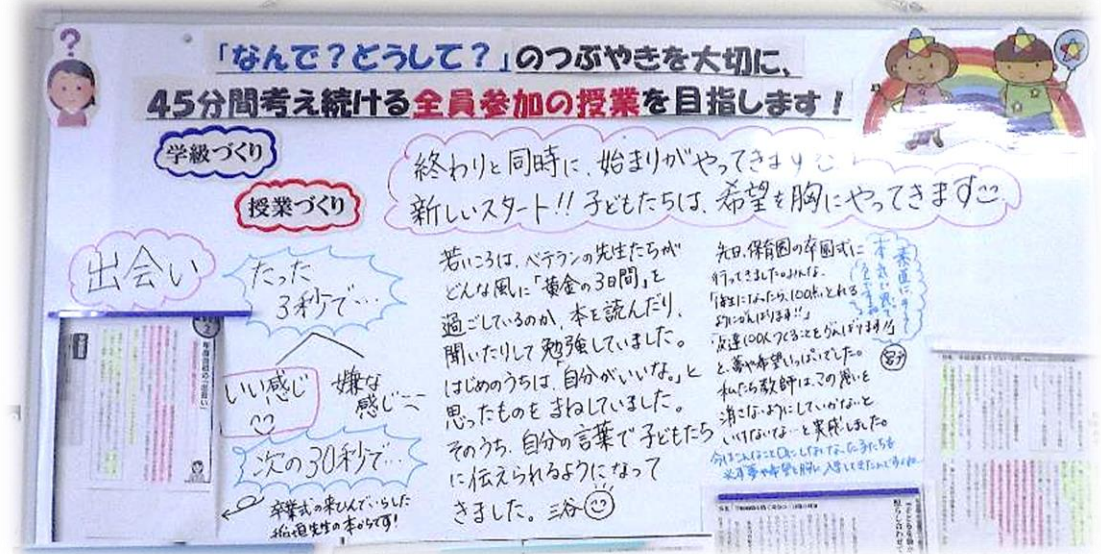
授業の悩みや情報を共有

○印刷室にホワイトボードを設置し、授業で困っていることや悩んでいることなどを職員で書き合い、共有できるようにした。

○授業の板書写真を掲示し、ベテランから若手教員への指導技術の伝承。

○ハンドブックの作成。4月の学級開きについてや他教科についての指導方法など、実践的な内容になっている。

学び続け、自ら輝く教師へ
日頃から、指導力向上や授業改善を意識し、教師同士も学び合っている。



授業を見る視点シート

授業を見るシートを作成し、授業を参観する視点を明確にした。授業研究会もその視点を中心に話し合いを進めた。

項目		内容	授業者の実践を見て、気付いたこと
学習課題に興味関心を持つ	導 入	①児童の興味関心意欲を喚起することができた。 (児童の実態を考慮した教材、生活と関連させた導入、驚きや疑問を感じる導入)	良かった点
			改善点
課題解決を図るために発達しをもって粘り強く取り組む	展 開	②児童の思いや考えを引き出す発問・声掛けができていますか。 (すべての児童が理解できる発問、児童のつぶやきや発言を価値づけつなげていく、児童の反応に応じた適切な声掛け)	良かった点
			改善点
学習活動を振り返り、次の学習につなげる	結 束	③課題に正対したまとめを振り返っている。 (本時の学習過程を振り返ることができたか、キーワードを示す、子どもの言葉を活かす)	良かった点
			改善点
MEMO			

【導入】
 ・児童の興味関心意欲を喚起することができたか。
 (生活と関連させた導入、驚きや疑問を感じる導入の工夫)

【展開】
 ・児童の思いや考えを引き出す発問・声掛けができていますか。
 (児童のつぶやきや発言を価値づけつなげていく)

話し方・聞き方名人

学び合いの第一歩として、話す・聞くポイントを掲示して意識できるようにした。

〇〇のよう おなじところは…
 〇〇くらいの 〇〇にそっくり
 〇〇とちがう ちがうところは…
 ぼく・わたしだったら…

話し方名人 かきくけこ

① 言葉を 終わるまで はっきり

② 決めて 急がず

③ 口を 大きく 開け

④ 聞こえる 声で

⑤ 体を 向けて

ふりかえりのキーワード

ふりかえりのキーワード

- ・わかった
- ・できた
- ・友達の考えを聞いて
- ・学習したことをもとに

(例)5年「合同な図形」

合同な三角形は、コンパスと分度器を使うとかけることが分かりました。分度器だけでかいたり、コンパスだけでかいたりしている友達もいたので、いろいろな方法で合同な三角形がかけられることも分かりました。他の図形のかき方もどうやってかくのが気になりました。

授業の振り返りを行う際に、参考になるようなキーワードを教室に掲示した。また、内容も発達の段階に応じたものにするので、系統立てて指導することができた。

授業研究会

つなぐことで、深い学びへ



ICTで思考をつなぐ
個々の考えをICTを使って全体に広げ、新たな発見・思考へとつないでいく。



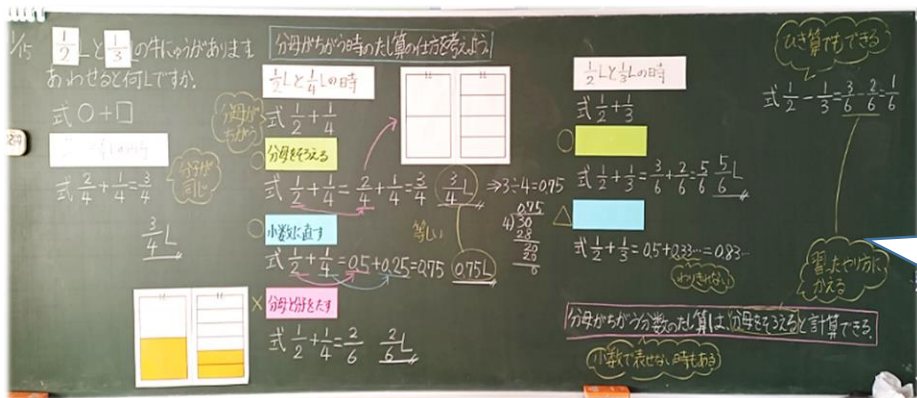
TT指導でつなぐ
T1・T2の役割を明確にし、個に応じたきめ細やかな指導を行った。



全員参加の授業を目指してつなぐ
学級経営との両輪で授業を構成し、一人一人の特性を生かした授業を展開。どの児童にも活躍する場面を。



自分と友達の考えをつなぐ
友達との話し合いをきっかけに、自分の考えをもったり、課題を解くヒントになったりするように時間を確保。



子供の発言や思考を板書に残してつなぐ
子供の発言の中で、思考が深まる発言やヒントとなる発言を吹き出しにして板書に残していった。また、複数の問題の中で関連する箇所を結ぶことで、よりよい解き方を導ける授業展開を行った。

学級づくりチーム

授業づくりとの両輪

意識していこう！新宿18項目

～共通理解・共通行動～



	内容項目	手立て
生活全般	聞くとき・書くとき・見るときを分ける	・授業の見通しを立てる
	静かに聞く	・ハンドサインを決めるなど(静かにマーク)
	話している人を見る	・ルールをはっきりさせておく(例)
	最後まで話を聞く	・「はい」の返事で発表者を見る ・最後まで話を聞いてから質問する。など
	手のあげ方	・できなかつたらやり直す(1回くらい)
	返事 「～です。～ます。」	♡つぶやきを大切に ♡よい例をほめる ・習慣化(健康観察の時など) 例) 授業中、全員が手を挙げられるようにハンドサインを変える。など
授業前	授業準備	・挨拶後着席させ、授業準備をする
	チャイム着席	♡評価をする(黒板に花丸をするなどのみえる化)
	筆箱の中身	・ミッションとして取り組む
	引き出しの整頓	・引き出しと筆箱の中身を掲示しておく
授業中	号令(立ち方・あいさつ)	・声掛け(ぐー・べた・びん)
	姿勢(足をしまふ・椅子をひく)	・徹底させる(待つ・一緒にやる・やり直す)
	机の上の整頓	・机の上の掲示物をつくる
	下敷き	
話し合い	おへそを向け合う	・習慣化
	タイム(始め・終わり)	・グループ作り ・発問は具体的に
	全員が話す	・終わる前にあと〇分と声をかける ・「話し方名人」「聞き方名人」「話し合い方名人」を参考に

意識していこう！新宿18項目

教員が絶対譲れない基本的な学習ルールについて、児童の実態をもとに整理し、明確化することで、教員間の共通理解を図り、指導に生かすことができるようにという目的で設定した。基本的な学習ルールを統一し、学びに向かう姿勢を整えることにより、学力向上につながると考える。

非認知能力との関わり

新宿小では「自己効力感」を高めるためにほめて伸ばす指導を心掛けている。表の中の「♡マーク」は、自己効力感に関わる内容となっている。

5Sの実践「さすが、すてき、すごい、すばらしい、それでいい」

新宿小の元気で素直な子供たちのために つぶやきを大切に

子供たちの「気づき」や「ひらめき」の「つぶやき」を「発表」とは区別して大切にしたいという新宿小教員の思いがある。

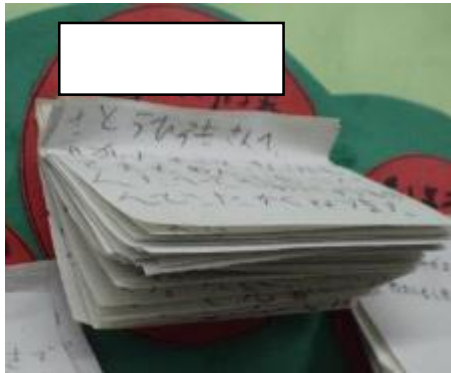
自己効力感アップ



りんごの木 ~いいところみつけたよ!~

・自分のよさを実感できるように、個人に対してのよいところ探しを学級・学校全体で取り組んだ。学力を伸ばす自己効力感が向上してきた。

・「~ができる、上手」だけでなく、頑張りや努力によって「できた」ことにも目を向け、友達の変容にも気づくことができた。



家庭との連携



学力向上推進事業が学力向上と家庭をつなぐ合言葉
「早おき 朝ごはん 正哉 朝の元気な子!」
笑顔あふれる元気の学校づくりをめざして!



学力向上推進事業が学力向上と家庭をつなぐ合言葉
「早おき 朝ごはん 正哉 朝の元気な子!」
笑顔あふれる元気の学校づくりをめざして!

12月 子どものやる気・元気を引き出す合言葉
早ね早おきは健康生活のスタート地点



新宿小 けんこうのえ
テーマ授業「早おきをするといことあるよ!」
年 組 名前 保護者お名前

※テーマに関連なく、早ね・早おきのほかに関心していることなどでもよいです。
保護者より記入願います。記入がなくても構いません。保護者印のボックスに入れてください。

【早ね・早おきは健康生活のスタート地点】
【参考】保護者である 早寝・早起き・朝ごはんの本 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

「人間は、目の出とともに活動し、目覚めとともに休息する。」
これらが体のリズムを調節して自然に人間の生活リズムです。しかし、生活の激変が原因、24時間覚醒やマメな活動の増加により、楽しく朝起きに悩む子ども、人権家のリズムを乱してしまっている人が多く見られます。夜間の人が増えることでも朝の覚醒が難しくなります。

※文部科学省調査「子どもの睡眠と生活習慣の関係」
・就寝時刻が遅い子どもほど、年中の学習の遅れを伴わない。
・就寝時刻が遅い子どもほど読書量が少ない傾向がある。
※就寝時刻が遅い子どもは、学習や活動など、生活リズムが整うだけでなく、心の安定や人間関係などに対してより影響を及ぼすことを示しています。

※日本睡眠学会の成人対象の調査
「睡眠不足（過剰であっても）は、生活習慣病の発生を促す。」
・睡眠時間が、6時間未満と長時間以上の場合は、健康寿命を短縮するとの血液の循環（ヘモグロビンA1c）が高く、女性では、中脳も低い。
・睡眠のとり方が、成人の健康状態にも大きく影響しています。
子どもたちの学力向上のために
子どもたちが本来に備った「早ね・早おき」のよい生活習慣を確立し、定着を目指すことは、学力向上にもつながります。学力向上にもつながります。実は、保護者の睡眠の確保が子どもの学力向上につながります。
子どもたちの健康・福祉・心の成長を促すとともに、ご家庭みんなで、健康生活を送れるよう、学校と家庭をつなぐ合言葉をもちに、学力向上を目指して一緒に取り組まましょう。よろしくお願ひします。



自主学習コーナーの充実

新宿ノート（自主学習ノート）を進め、1冊終わった児童は校長先生より賞状と名前カードをもらい、廊下に掲示し、意欲向上を図っている。

新宿小と家庭をつなぐ合言葉

児童のやる気・元気を引き出す合言葉を考え、児童も楽しめるようにぬりえにし、家庭からの返信欄も作った。裏面は理由や効果を書いた。

全校児童の取組 年間1200冊
一人平均 3.3冊

児童アンケートより (R4)

児童の実態を把握し、よりよい研究・実践となるよう次のようなアンケート調査を年間3回（各学期1回）実施した。項目によっては、埼玉県学力・学習状況調査と同じ質問を設定し、関連を図れるようにした。

	意 図	質 問 内 容
学校評価	理解度	①学校のじゅぎょうは、わかりやすいですか。
	家庭学習	②しゅくだいや自主学習(しんじゅくノート)は、できましたか。
	読書	③読書ができましたか。
	挨拶・返事	④進んであいさつと「はい」という返事ができましたか。
	教育相談	⑤先生は、こまったときなど そうだんにのってもらえますか。
	体力向上	⑥進んでうんどうしていますか。
	生活習慣	⑦きそく正しい生活をしていますか。(はやね、はやおき、あさごはん)
	安全	⑧さいがいひのときなど、ひんんのしかたがわかりますか。
	美化	⑨教室は、いつも せいりせいとんされていますか。
非認知能力	自己効力感1	⑩自分には、よいところがあると思いますか。
	自己効力感2	⑪むずかしいことでも しっぱいをおそれないで ちようせんしていますか。
	自己効力感3	⑫自分は、じゅぎょうでよくやっているほうだと思いますか。
	勤勉性	⑬じゅぎょう中は 自分がやっていることに 集中していますか。
	自制心	⑭じゅぎょう中は 友だちがせつめいしているときにじやまをしないで話をきいていますか。
	やり抜く力	⑮なににごとも はじめたことは、さいごまでおわらせていますか。
	向社会性	⑯だれに対しても しんせつにして、人のきもちを考えていますか。
主・対・深な学び	規律ある態度 (県重点)	⑰先生の話や友だちの発表をしっかり聞き、自分の考えを伝えることができますか。
	主体的な学び	⑱さんすうのべんきょうは すきですか。
	主体的な学び	⑲じゅぎょうでは、わからないことなど、しつもんしやすいですか。
	対話的な学び	⑳話し合ったり、こうりゆうしたりすることで、自分の考えをしっかりもてるようになりましたか。
	対話的な学び	㉑話し合いや しりょうから、自分の考えがかわったり、ふかまったりしたことはありますか。
	深い学び	㉒じゅぎょうで学んだことを、さらにわく知りたと思ったことはありますか。
	学級づくり	㉓先生たちは 自分のよいところを みとめてくれましたか。

「授業がわかりやすいか。」

A回答 62.1% → 68.6%

(R4 1学期) (R4 3学期)

年間を通じてもA B回答が95%を達成している。一人一人のよさを見つけて生かすことを教師が意識することで、わかりやすい授業につながったと考えられる。

「先生たちはよいところを認めてくれたか」

A回答 69.9% → 75.2%

(R4 1学期) (R4 3学期)

A B回答では96.3%が好意的に受け止めている。児童は、教師から多くの称賛や承認をもらうことができ、自身のよさに気付き、自己効力感を高めるきっかけになったと考えられる。今後も学校全体が家庭や地域と連携し、一つのチームとなって一人一人のよさを見つめ、伸ばす教育活動を展開していくことが重要であるととらえている。

算数への主体性については、AB回答が7割程度であった。これも、学期を追うごとに下がる傾向が見られ、学習内容の困難度が上がることが一因と考えられる。一方で、「分からないことが質問できる」の項目では、逆にA回答が向上する結果となった。協力や対話から算数への主体的な学びにつながるようにしていきたいと考えている。

1年目から2年目へ

つなぐ

しかけ

MOTTO (もっと)

えがお

笑顔あふれ ともに学び合い ともに高め合う新宿小学校

<校内研修資料>

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり ～学校課題研究と関連して～

令和5年4月24日(月)
東松山市立新宿小学校長 長澤 誠

授業のユニバーサルデザインとは

～授業・学習に置き換えてみると

6.5%(文科省, 2012)
10.7%(県教委, 2013)
8.8%(文科省, 2022)

<現状認識>

- ・学習にバリア(障壁)を感じる児童生徒が増加
- ・人の能力や個性、置かれた状況は多様

<目標>

確かな学力 生徒一人一人が自立、互いに尊重、支え合い
「知識・技能の習得」「活用」「主体的な学び」

<方策>

①バリアの除去

- ・個別的な配慮

②新しいバリアを作らない

- ・誰にとっても **学び** やすくデザインする

授業のユニバーサルデザイン

UDの視点を取り入れた授業とは

①授業のバリアフリー

特別な教育的支援が必要な児童生徒を対象に、**個別的に配慮**することで、教育を受ける上で生じる困難(バリア)を取り除くこと

②授業のユニバーサルデザイン

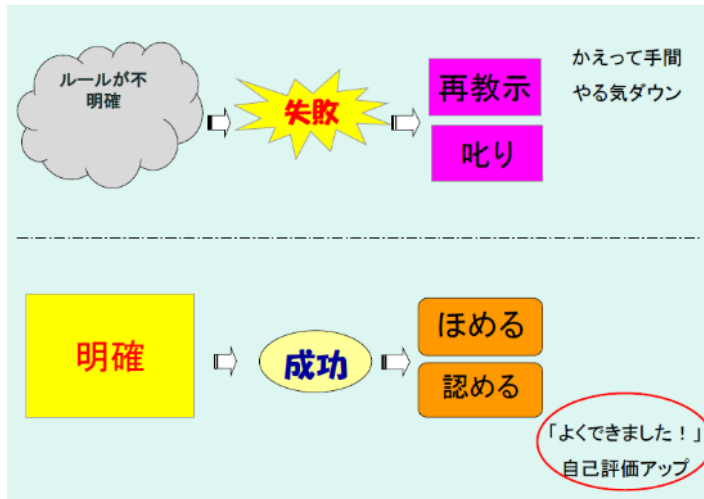
個別的な支援や配慮を、**最初から全員に向けて**行うという発想

- 学び難さのある児童がいるという前提
- そのための多様な手立てがある
- その結果、全ての児童が分かりやすくなる

一人一人のよさを生かす

(発達にアンバランスがみられる子、困難な課題を抱える家庭状況にある子、愛着形成の問題を抱える子)

新宿小の土台



本人の気づきを促すアプローチ

授業開始(終了)の挨拶の時、いつまでたってもお喋りを止めない

✕ 先生「うるさい！ 静かにしなさい！ 何度言ったら分かるの！」(叱)

○ 先生「はい、鉛筆を置いて、先生に顔を向けましょう」(注意を喚起)
児童:(まだ数名が、お喋りを続けている)

先生「……(沈黙、全員が注目するまで待つ)(児童の気づきを待つ)
「C君、黙ってしっかり前を向いているね！」(できている児童を指摘)
「B君もいい姿勢ですね。背筋がピンと伸びている！」

A君:(次第に静まってくる雰囲気とほめられる友だちに、ようやくここで気づく)
先生「おっ、A君も集中できているね！」(できたことをほめる)

→ ①本人の「気づき」を促す ②ほめる場面を作る(肯定的表現で)

指示の出すときのポイント

①はい、注目！

②今から大事な話をします

③三点あります

④質問は後で受けます

- ・注意を喚起し、視線を引き付ける
- ・自ら聞く“構え”を促す
- ・簡潔に話す
- ・具体的に
- ×「ちゃんと」「しっかり」
- ・視覚的に示すことも

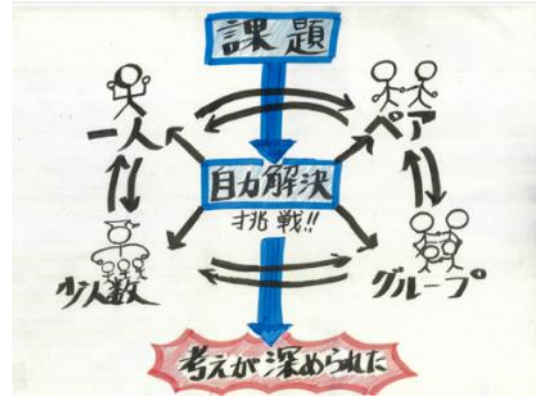
授業づくりチーム

1年目の学力向上研究校指定事業訪問より 「複線型授業」のすすめ

複線型授業の流れ(新宿 Ver.)

	教師	児童
導入(課題)	・課題の見通しをもたせる(ゴールの明確化)	・課題の見通しをもつ
自力解決	・1~2分必ず自力解決する場面を設ける	・1~2分自力解決をできるところまで行う
複線型	<ul style="list-style-type: none"> ・複線型の確認(イメージ図) ・形態を選択させる ・学習場所に移動させる ※支援を要する児童については、あらかじめ把握しておき、学習形態の移動をスムーズにできるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・形態の選択をする(挙手) ☆学習道具を持ち、それぞれの場所に移動する ・考えについて話し合い、ノートに記述していく。 ・一つ考えたら複数の考えを考えていく。 ※全員が説明できるようにしておく ・ストップウォッチがなったら自分の席につき、話し合ったことをノートにまとめる。
複線型の児童の流れ ①複線型の形態を選ぶ ②学習用具を持って移動する ③メモをとりながら課題について話し合う ④時間があたら他の考えについて出し合う ⑤タイマーが鳴ったら、自分の席に戻る ⑥自分の席でノートに考えをまとめる(1~2分)	【有効な声かけ】 「なんで？」 「どうして？」 「どうやったの？」 「考えをノートにまとめておいて」 「違う考え方あるかな」 ※ゴールから遠ざかったり、止まってしまったりしているグループには机間指導しながら声かけ(他グループの考えを見に行ったり、課題の再確認)をしていく ・ストップウォッチが鳴ったら席に着かせ、ノートをまとめさせる(1~2分) ※机間指導しながら発表児童の目星を見つけておく(発表順番も)	
練り上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことを出させ、説明させる ・同じ考えや補足説明があるか確認する ・キーワードになる言葉は繰り返し聞き返す 	・考えたことを発表する。
適用問題	・理解が深まっているか机間指導する	・学習内容が理解できたか自分で問題を解いてみる。

今までの自力解決を1~2分にし、**学習形態の自己選択・自己決定をプラス**



自ら学びに向かう主体性
考えを一步でも進めよう!
そのために、自ら動く!

(例) 一人 → グループ
 少人数で先生と → 一人

学んできたことを、
 ノートにまとめる

インプットしたことを
アウトプットできるように

全体で練り上げ
 見方・考え方を広げる

【教師の役割】
お互いの表現方法 (図・式・言葉) をつなぐ
多様な考えをつなぐ

複線型を取り入れた授業

少人数

考えが進まず、一人
になっている児童へ
声かけ（担任T1）

先生にヒントをもらい
考える（T2）

複数で話し合って考える

【効果】

- ①児童が主体的に課題に向き合うようになった。
- ②クラスの中での対話が増えた。
- ③「わからない」ことをそのままにしなくなった。
- ④児童は自分の考えを共有することで安心感を抱くことができる。

【留意点】

- ・教師の見取りが大切。（人間関係、個々の理解など）
- ・単元や内容、学年によっては、学習形態を考えていく。
（一斉授業で学び合っていくよさ、複線型の自由度）
- ・児童同士の学び合いのレベルを上げる必要がある。そのためには、練り上げ時の教師と児童のやり取りをモデルとしていく。

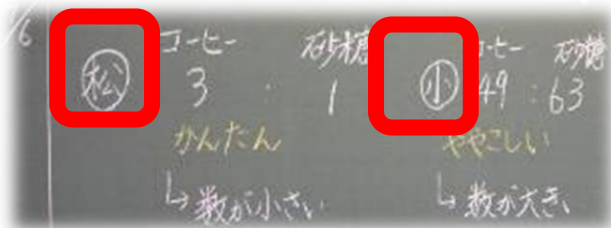
一人

グループ

ペア

導入のしかけ

問題に先生の名前が登場することで、問題場面をより身近に感じさせる。

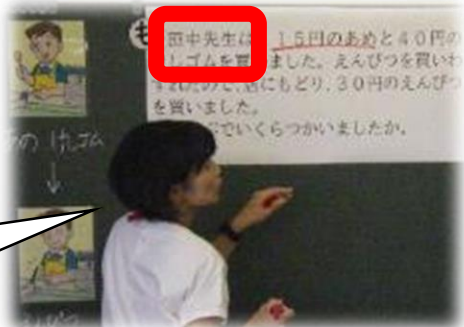


それぞれの担任の脚の開き具合を記録として残していきたいんだ。



私のこだわりのコーヒーはね…、A先生 (T2) はこだわりがすごすぎて…

お買い物に行ったのに、買い忘れちゃって、後から…



全員をまきこむしかけ

4 5分間思考し続けるには、教師がつなぎ役として、学級全員をまきこむ意図的なしかけが大切。

問い返し発問例

- どうして？
- どうやって？
- どういうこと？
- 〇〇さんのこう考えた気持ち、わかる？
- ヒント出せる？
- 絶対？みんなもそう思う？先生は、違うけどな？ (新宿小ハンドブックより)

複線型の話合い中、ポルトガル語でサポート。



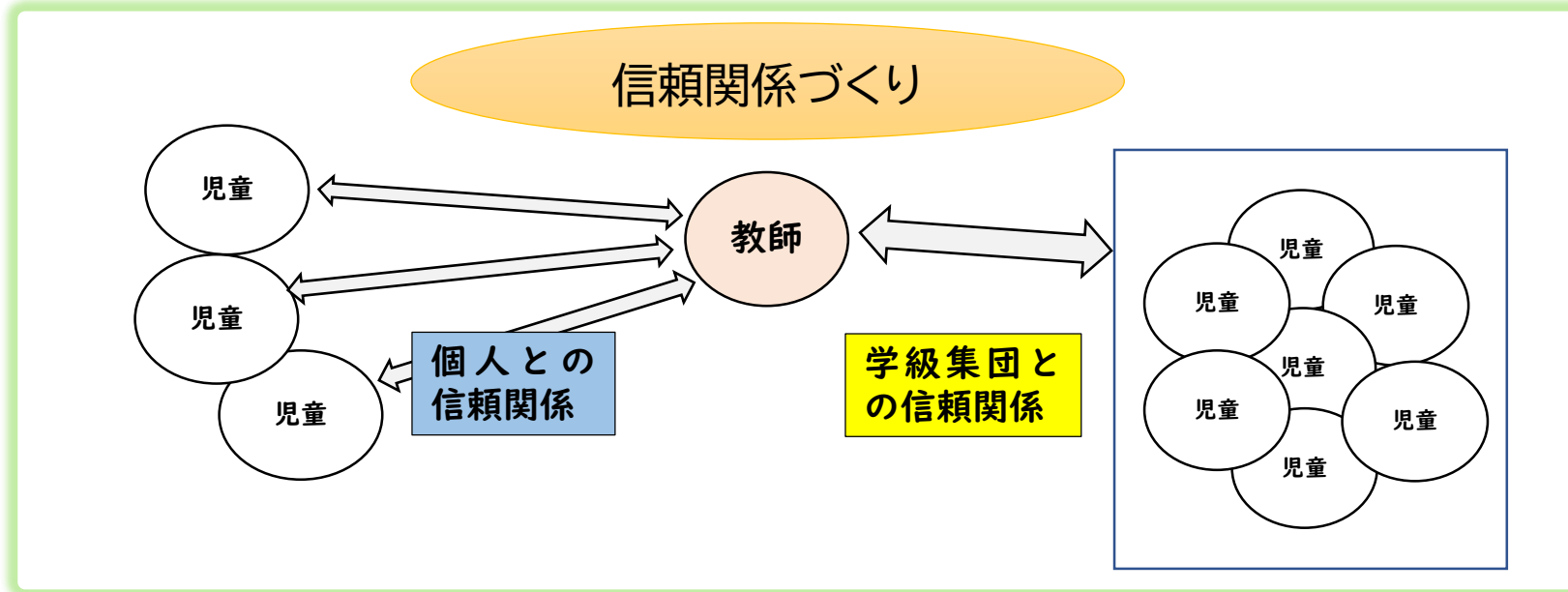
あえて立たせて話合いをさせている。



学級づくりチーム (きずな班)

学級づくりは土づくり

子どもが育つ土には、**栄養（学び・意欲・習慣）** 潤い（思いやり・笑顔・感動）が必要。



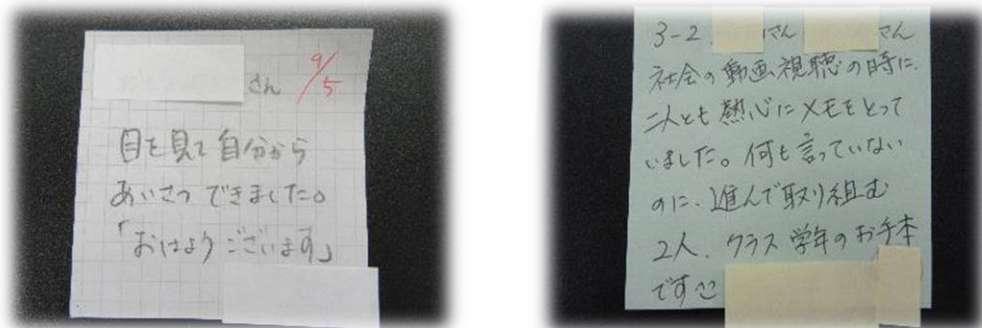
先生からのメッセージタイム

- ・朝の会で、教師から児童をほめる場面を新設した。
- ・「よい行い」が価値づけされ、周りの児童へもプラスの行動が広まるように学級全員の前でほめる。
- ・教師側も「ほめる」ことを意識することで、児童の見方を広げる。
- ・児童同士も友達によさに気付けるように、教師が意図的に児童をほめる。

ハッピータイム

- ・毎週木・金スキルタイムに設定。
(3週に1回、各学年にハッピータイム)
- ・活動場所は、校庭、体育館。
- ・学年、あるいは学級単位で遊ぶ。(活動する)
- ・担任も一緒に参加。
- ・遊びの中で、児童同士の間人関係を広げる。
児童と教師の関係を築く。

先生からのメッセージタイム



教師が児童のよい行動や素敵な姿を見つけたら、付箋で担任に知らせている。

「ほめほめノート」を作り、児童も書き込めるように。

9月29日（金）の予定

朝の活動	スキルタイム
1時間目	種別
2時間目	国語
3時間目	国語（竹下先生）
4時間目	社会（二谷先生）
5時間目	体育

先生からの一言・・・
声をかけるやさしさ、見守るやさしさ
むずかしけれど意識していこう！！！！！！
笑顔が素敵なみんなが先生は大好きです♡

一日の日課を伝える予定表に「先生からのメッセージ」を。

ハッピータイム



【1年生】

猛獣狩りで、できたグループで自己紹介

1組と2組のクラスを超えて仲間を広げよう！



【4年生】

担任も学年帽子をかぶり、猛ダッシュ！

【6年生】

修学旅行前、全体の意識を高めるために、心をひとつにジンギスカン！



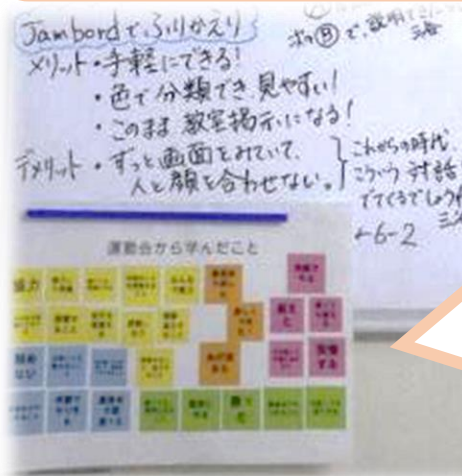
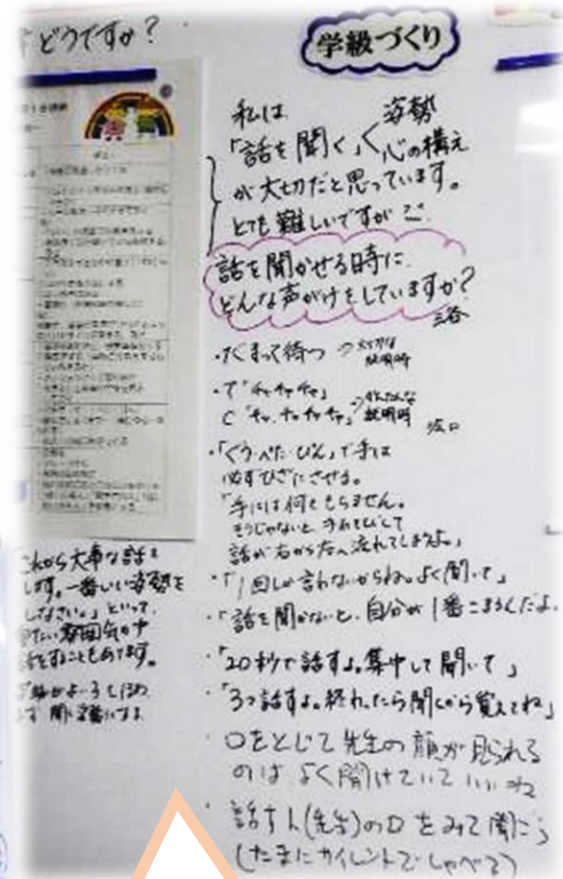
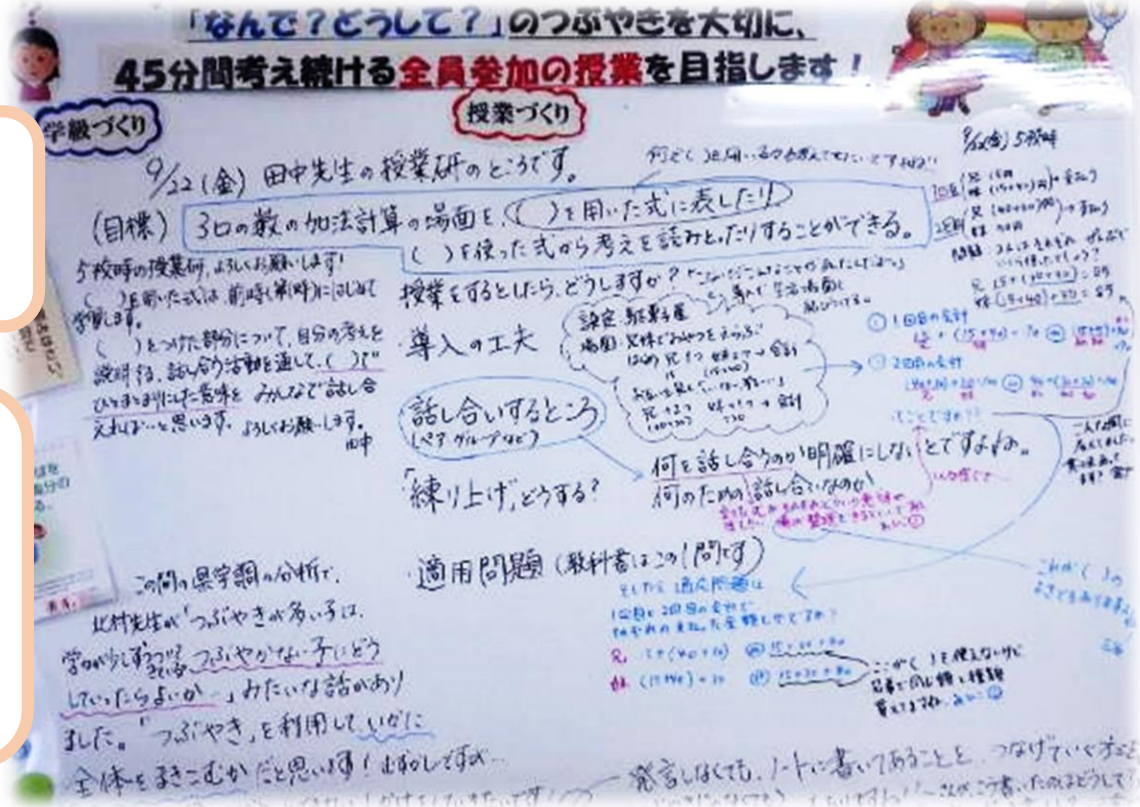
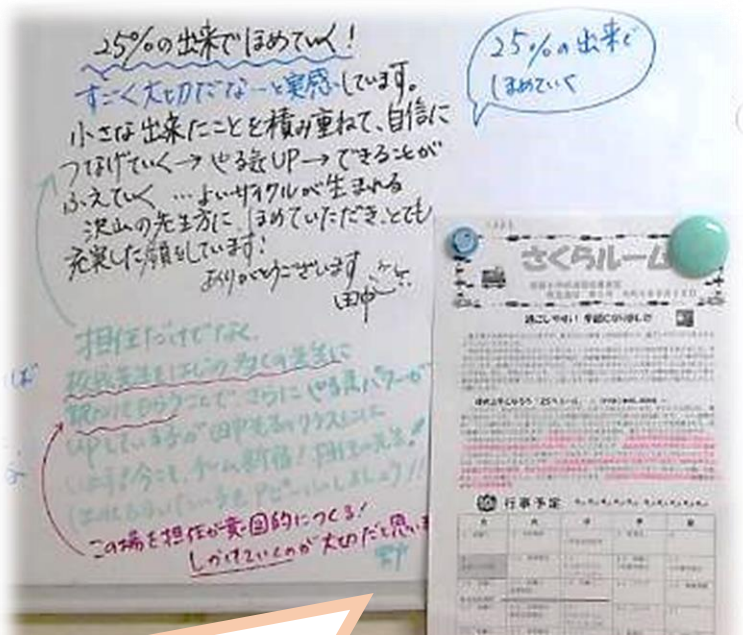
学び続け、自ら輝く教師へ (2年目の交流ボード)

研究授業前には、授業者の主張や見どころについて事前に提示。それに対して、自分だったらどう展開するか等をプチ協議会。

通級指導教室の保護者向けへは、教師にとっても大切なことが。「25%の出来でほめていく」

ICT活用について、実践紹介。
Jambordで運動会の振り返り

「Q 話を聞かせる時に、どんな声掛けをしていますか。」
日頃、取り組んでいる手立てについて書き込み。



学級づくりチーム (家庭との連携班)

養護教諭の専門的見地から、学校全体がチームとなって学力向上へしかけていくことが本校では重要。

学力向上研究校指定事業☆☆新種小と家庭をつなぐ合言葉
「早ね 早おき 朝ごはん 朝うんち 正座 親切 元気な子！」
笑顔あふれる元気な学校づくりをめざして！

9月 子どものやる気・元気を引き出す合言葉
**朝うんちのすすめ
～おなかスッキリ心もスッキリ～**

朝うんちできたかな？ できたらたら色をぬろう！

たのしくできたね！
イーベン navi 便秘のお悩み解決サイトより

テーマ投稿募集！ 朝の排便のひけつ 家庭から返信用

年 級 名 前 _____ 保護者お名前 _____

*テーマに限らず、朝の排便について相談したいことでもいいです。
保護日より等に紹介させていただきます。匿名でもかまいません。保護者欄のポストに入れてください。

学校と家庭が同一歩調で取り組める合言葉

よい生活習慣が身につけば、**脳の活性化、記憶力・集中力アップ、ストレス解消**に役立つ。

よい姿勢が身につけば、疲れにくい、イライラしにくい、体の不調の予防などができ、**学習に集中できる**。



家庭との連携を図ることで、学校・家庭の両方からアプローチすることで、**子供たちの意識づけが強化できる**。

家庭からの返信欄をつくり、学校と家庭が課題や解決策を共有できるようにした。

学力向上研究校指定事業☆☆新種小と家庭をつなぐ合言葉
「早ね 早おき 朝ごはん 朝うんち 正座 親切 元気な子！」
笑顔あふれる元気な学校づくりをめざして！

10月 子どものやる気・元気を引き出す合言葉
立腰のすすめ～机いすで姿勢チェック～

いざにかけたときの姿勢
膝から上は立ったときの姿勢と同じ
お腹と背中になぎこよしが戻る
足の裏が全部床についている

テーマ投稿募集！ 立腰のひけつ 家庭から返信用

年 級 名 前 _____ 保護者お名前 _____

*テーマに限らず、姿勢について相談したいことでもいいです。
保護日より等に紹介させていただきます。匿名でもかまいません。保護者欄のポストに入れてください。

生活習慣アンケートより、学校が課題としている児童の実態について、**家庭が意識していないことが明確になり、よりよい親子の関わりについて啓発していく必要がある**。

埼玉県学力学習状況調査から見てきた成果（個人編）



◇帳票40色分けシートを活用した全体研修会

児童ごとの学力レベル・伸び・学習方略・非認知能力を分析（学年、学級ごと）

◇学校課題研修会

抽出した児童の学校課題との関連を分析（児童分析班）

5年 A	R4 レベル3—B	+ 6	R5 レベル5—B
本人の実態	学力レベルは下位層である（R4）。全体指導の中でも配慮を要する場面が多い。低学年の頃は、気持ちの切り替えができずに固まっていることが多かった。学習方略や非認知能力が平均以下である。		
児童の変容	家庭状況が落ち着き、精神的な部分が安定してきた。気持ちの切り替えができるようになったことで、文字を書くスピードが速くなった。他にもできることが増え、本人に余裕が生まれたことで、より集中できるようになってきた。		
効果的だった取組	耳だけでなく、視覚からも情報を得られるようにした。（UDの視点）全体で指示を出した後、個別に声をかけ、できていることを認めた結果、自己効力感が高まり、意欲的に取り組むようになった。 自己効力感 R5 3.4 (+0.6) R4→R5変化量		

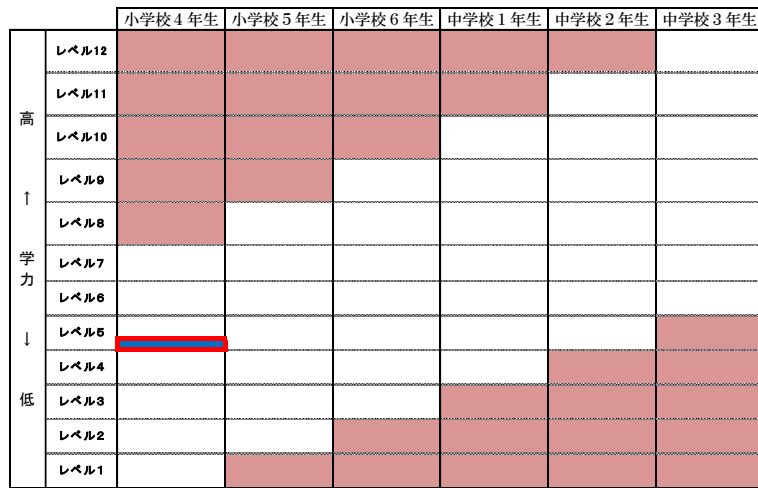
6年 B	R4 レベル4—C	+ 5	R5 レベル5—A
本人の実態	学力レベルは、下位層である（R 4）。向社会性が高く、友達と学び合いながら、自分が理解するまで粘り強く取り組むことができる。		
児童の変容	認知的方略が4.5（勉強した内容を自分の言葉で理解するなど）と伸びた（+0.8）。また、主体的・対話的で深い学びの実施は4.2と高い。意欲的に話合いに参加し、友達の考えをヒントに思考したり、話し合ったことをノートにまとめたりすることで学力が伸びた。		
効果的だった取組	授業に話合い活動を取り入れた。一斉では発言が少なかったが少人数では活発に話合いをするようになっていった。そして、徐々に自信をつけ一斉授業でも発表することが増えていった。家庭学習では、内容に重点を置いて指導した。自分なりの学習の仕方を身につけることができた。		

R 4 の結果から 4 名の児童を抽出し、R 5 の結果を分析を行った。どの児童も学力が伸びていた。本校の学校課題の取組「**授業づくり**」と「**学級づくり**」の両輪で**学力向上を進めていくこと**が、本校の実態にあっている。また、**一人一人の実態（特性）に寄り添った指導**が実を結んできている。

埼玉県学力学習状況調査から見てきた成果（学力編）

算数

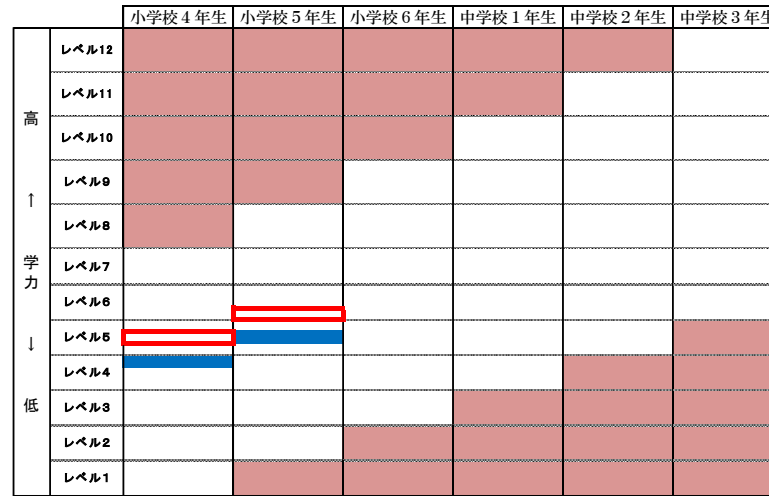
今までの学力の変化



現4年生

算数

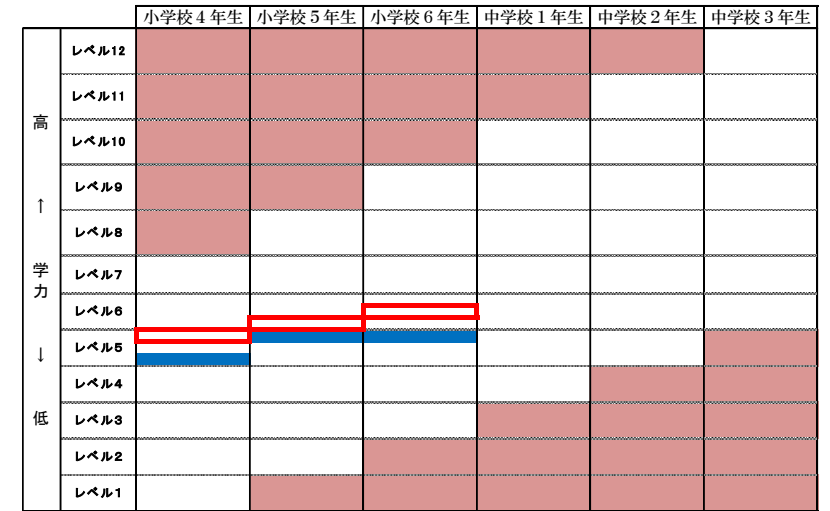
今までの学力の変化



現5年生

算数

今までの学力の変化



現6年生

- ◇ 5・6年生の算数の正答率は、依然として埼玉県と比べると9ポイント近く低い。
- ◇ 4年生の正答率は、-2.9ポイントとなっており、このまま算数科の学習を積み上げていきたい。
- ◇ 算数科は、既習の上に新たな学習内容が積み上がっていくので厳しい部分があるが、この結果を真摯に受け止め、日々の授業や家庭学習で既習を補っていく必要がある。

帳票33 学力を伸ばした児童の割合（算数）

【現5年生】

学校名	学力を伸ばした児童生徒の割合(%)	学力が伸びなかった児童生徒の割合(%)	学力の伸び率 (R5学力のレベルとR4学力のレベルの差の平均)
埼玉県	67.0	33.0	1.8
東松山市教育委員会	56.3	43.7	0.9
東松山市立新宿小学校	64.8	35.2	1.4

学力の伸びが見られた児童の特徴として、**非認知能力の「自己効力感」と「やりぬく力」**のどちらかが高かった。

【現6年生】

学校名	学力を伸ばした児童生徒の割合(%)	学力が伸びなかった児童生徒の割合(%)	学力の伸び率 (R5学力のレベルとR4学力のレベルの差の平均)
埼玉県	57.7	42.3	1.1
東松山市教育委員会	49.0	51.0	0.4
東松山市立新宿小学校	55.8	44.2	0.5



最後まで粘り強く課題をやり遂げようと互いをほめ合ったり、励まし合ったりする**学級の学びを築き上げる**ことが大切。

地域と比べると、学力を伸ばした児童の割合は高い。
本校の研究の成果が徐々に表れていると言える。

埼玉県学力学習状況調査（質問紙）から見えてきた成果（学級づくり編）

学校の先生たちは自分のよいところをみとめてくれましたか。

R 4 年度

R 5 年度

4 年生

	みとめてくれた
埼玉県	57.1
市町村教育委員会	50.7
本校	45.6

	みとめてくれた
埼玉県	57.4
市町村教育委員会	53.4
本校	70.8

5 年生

	みとめてくれた
埼玉県	61.5
市町村教育委員会	60.4
本校	63.5

	みとめてくれた
埼玉県	60.9
市町村教育委員会	53.5
本校	64.3

6 年生

	みとめてくれた
埼玉県	57.1
市町村教育委員会	50.7
本校	52.7

	みとめてくれた
埼玉県	61.0
市町村教育委員会	56.9
本校	66.7

- ◇埼玉県と比べて、高いポイントになっている。
- ◇研究前（R4）と比べて、変化が大きい。
- ◇学年を追ってみても、伸びている。

本校が一番大切にしてきた「学級づくりの中で、一人一人のよさを見つめ、伸ばす教育」が、児童の心に通じた成果だと言える。

〈成果〉

- 教師と児童相互の関係がより深まり、自己効力感ややり抜く力が高まることによって、主体的な学びや協働的な学びが広がり、着実に学力の向上が見られる。
- 一人一人の状況を客観的・多角的に教師が把握することで個別最適な学びを引き出し、学習のみならず学校生活全体への指導が充実した。また、成長を児童と教師が共有することで自分自身を見つめ直すことができ、よりよい生活習慣や落ち着いた学習態度が身についてきた。
- 学び続ける教師の想いが児童へ届き、一人一人の健やかな成長につながっている。

〈課題〉

- ◇授業での協働的な学びを一層深める。また、そのための学習方略を意図的・効果的に取り入れられるよう実践を重ね改善していく。
- ◇学習状況のデータと指導を関連させて蓄積し、さらに多様化する教育活動に今後も活用していく。

これからも「笑顔あふれ ともに学び合い ともに高め合う学校」へ

